

第 41 回番組審議会議事録

1. 開催年月日 平成 25 年 6 月 25 日(火) 午前 10 : 30～11 : 35
2. 開催場所 箕面市船場東 2-5-47 COM3 号館 5 階 COM 倶楽部会議室
3. 委員の出席 委員総数 8 名
出席委員 6 名
出席委員の氏名 稲垣千秋、稲井信也、高谷和彦、桑田政美、
中 宏、牧野直子
以上 6 名
放送事業者側出席氏名 岡田 堅治 (顧問)
藤井 栄治 (取締役統括部長)
大平麻由美 (編成課長)
永田 純子 (編成課員)
4. 議 題 1) 番組 新番組「福井栄一の箕面文化塾」
2) 審議
3) その他番組に対する意見
5. 議事の概要 事務局挨拶の後、稲垣委員長が議長となり審議となる。

6. 審議内容

1) 番組

(1) 事務局より番組説明

本日はお忙しい中ありがとうございます。今回は、4月から始まった新番組「福井栄一の箕面文化塾」をお聴きいただきました。福井栄一さんは箕面にお住まいの上方文化評論家です。本を出版されたり、新聞や雑誌などにも寄稿されているかたです。それでは、よろしく願いいたします。

(2) 審議

委員長：では、いつものとおり、お一人お一人ご意見をいただきたいと思います。よろしく願いします。

委員：福井さんが瀧安寺のご住職にインタビューをされているという企画が、地域のいろいろなことの発掘としておもしろいかな、と思います。気になったのが、途中で音楽をはさむ構成ですけれども、瀧安寺の歴史的なお話の途中で、ご住職のリクエストにまつわる私的なお話が入り、流れが分断され、リクエストのお話はそれぞれはおもしろいと思うのですが、もうちょっと構成を考えたほうが良いという気がしました。また、最後の方で、いきなり能楽のような音楽が入ってきた部分、能楽ではなく、もっと瀧安寺らしい音源を使ったほうが良いと思いました。

委員長：これに対して事務局から何かありますか。

事務局：最後の音楽は番組のテーマ曲です。いきなり入ってくる感じというのは、技術的なことで解決できると思います。

委員長：もう少し工夫していただくようお願いします。それでは次の委員、お

願います。

委員：ご住職の話の間に音楽は要りますか？取って付けたような違和感がありました。話の内容と住職の個人的に好きな音楽とは全くかけ離れたものになっているし、その辺は構成では收拾がつかないような雰囲気がありましたね。番組の内容自体は、子どもにずっと聴かせてあげたいような、伝統的なことも含まれていて、箕面の文化としては大変貴重な話ですから、すごく良かったと思います。音楽を入れたために、全然つながりがないな、という雰囲気を与えましたね。それ以外は、たいへん良かったと思います。本当に子どもたちに残しておきたい番組だと感じました。

委員長：難しいところですね。ゲストのリクエストを入れることでその人の人物像がそこから出て、聴取者の親近感が湧くということもあるかもしれませんが、そのやり方がぎくしゃくしていたのかなという気もします。

委員：どうしても入れるのであれば、話の腰を折らずに、一番最後に「住職のリクエストです」と言って流すとか。間にはさむと一貫性が絶たれるという雰囲気ですね。

委員：私も、非常に良い着目点で、新番組としては良かったと感じました。パーソナリティがこの「箕面文化塾」という番組をどんな番組にしたいのかをはっきりもっていただければいいなど。

委員：なるほどね。瀧安寺という山岳宗教が箕面の地域、住民にどう浸透して、だから箕面は大阪でもこういう精神的なまちになっているといったそんな話が、歴史をさかのぼって聞けるのかな、と。箕面の特徴が、瀧安寺の影響も大きかったと思うので、そういう話が聞けたらと思いながら聴いていたのですが、パーソナリティ色が出てしまっていたというところですね。住職は詳しいことも聞けば…どんどん出てくるので、面白い話をもっと聞けたと思います。

委員長：もう少し、専門的といったらおかしいですが、一般市民が分からない、

そういった特殊な部分を聞き出してほしかったということでしょうか。

委員：「箕面文化塾」というタイトルからすると、やっぱり歴史から紐解いていって、何で今の箕面があるのかというところを、いろんな方面から聞いていくとか。例えばですよ、これは。もっと聞き方も、リクエストの取り方もあったのかな、というところですよ。

委員：パーソナリティご自身が住職と色々な話をされて慣れ親しまれる、酒の一杯でも飲むくらい付き合っておられたら、もうちょっとご住職のことも分かっていたと思うんですが、本人の知識の方が先走ってしまっているのかなあ、という気がしました。

委員：私は全く違った聴き方をしています、最初は男同士の会話で、どないなるんやろなと思っていたら、はっきり言って軽妙なトークで非常に面白かった。特に、お人柄だとか初恋とか…ご住職もこんなことがあったんだな、と。一昨日お会いしたのですが、そういうエピソード聞きましたよ、と言ったら照れていらっしやいましたけどね。だから、比較的軽妙なトークですんなり聞けたな、と。やっぱりラジオですから、どちらかという「ながら」で聞く分が多いので、あまりテーマというかコンセプトがきちっとしたものより、何となく聞き流して面白そうだな、という軽妙なトークが逆に良かったんじゃないかな、と僕は全く別の聴き方をしていました。あとは、こういう番組をどうやってみなさんに聞いていただくか、その普及、広報をね、どういう風にしたらいいのか。

委員：番組は家内と一緒に聴いていたんですが、非常に分かりやすいし、ネタとしても面白いし、話がずっと入ってくる。「ながら」で聞いていると、ためになるし、変にがなったりもしないし、良いなあ、という感じで耳に入ってくる。これはぜひ続けていただきたいな、と思ったのですが。もう一つすごく気になったのは、第4日曜だけですよね？ふだん聴く人ってけっこう日曜のこの時間はラジオを聴く、というのがあるじゃないですか。で、番組表を見たら第1週、第2週、第3週には全く違う番組が入ってますよね？聴く層を全然意識していない番組づくりになっているな、と、むしろ局としての番組編成が気になるというか。この番組が

すごく良いと思っているので、例えばですよ、「箕面〇〇塾」のシリーズを毎週もってくるとかね。たとえば、「箕面たくみ塾」が第1週だとか「箕面女子塾」が第2週だとか「箕面ビジネス塾」が第3週だとか、で第4週に「箕面文化塾」なり「箕面歴史塾」なりというような。「日曜の午後2時はこういうコンセプトで構成しましょう」みたいな、そんな感じにすると、常に聴いている人が新しい話題も取り、箕面のことも分かり、箕面の人も分かり…そんな風にならないかなあ、と。

事務局：そうですね。こういう文化的なものを毎週続けていきたいという思いはあります。

委員：堅いばかりじゃだめですよ、例えばさっき言ったように「箕面女子力」とか。

委員：ついでに言っとくと、「モーニングタッキー」があるんですが、「タッキーBOX」を「イブニングタッキー」にしても良いんじゃないの、とかね。ばらばらやからね、ネーミングも含めて。とにかく埋め込んでいるイメージがあるので、そっちを見直せばもっと聴きやすい流れになるんじゃないかな、と。

委員長：番組の全体的な編成を意識しながら組んでいただくということも、ちょっと頭のなかに入れて編成していただいたら良いかなと思います。私が一番感じたのは、30分の番組ではもったいないんじゃないかなということです。せめて1時間だったらどうなのかな、と。そうしたらちょっと息休めに音楽も入れながら別の面を味わえるかな、そしてまた専門的なことも上手に掘り下げながら、退屈しなくて聴けるかな、と。なんか30分で終わったのが中途半端で不完全燃焼を起こした感じになったんですよ。30分番組にしたのは何か理由があるんですか。

事務局：60分では長い、30分ぐらいがいちばん聴いていただきやすい、「もう少し聞きたい」というぐらいがいいと考えています。

委員長：逆にそういった狙いもあるんですかね。そうしたらそれは「もうちょっ

と聞きたい」というのは確かに感じたんですけどね。まあ、おそらく福井さんの腕でしたら 1 時間上手にみなさんを飽かさず、組み立て、話しができるかたかな、とは思ったのですが。

事務局：欠席の委員さんからご意見を頂戴していますので、ご紹介します。「福井さんの癖のある口調が最初少し気になりましたが、ご住職のおしゃべりにあわせ、ゆっくりした丁寧な進行がされていて、気にならなくなりました。歴史的に興味深いお話についつい聴き入ってしまう内容でした。歴史に興味のあるかたは非常に多いので、番組中に質問を受けたり、電話をつなぐ方法などでやりとりをすると、いっそう楽しい番組になるのではないのでしょうか」というご意見をいただきました。

事務局：福井さんが文化人なので、市民パーソナリティと違った視点でゲストのかたとお話が進めていけると見込み、期待して始めました。ゲストにお呼びするかたもやはりいろんなジャンルで文化的なかたを選定しています。

委員：続けるために、より多くの人に聴いてもらえるとか、反応があるとか、そういうことにつながると、文化度を高めたいと思っているかたにとっては、すごく意味のある 30 分番組を持つことが、それなりにモチベーションが高まると思うんですが。

委員長：アナウンサーが聞くのと、文化人のかたが聞くのと、同じ人をゲストに呼んでも、聞き出し方で全然違う内容が出てきますよね。また違うプラスアルファの答えが出てきて、それを味わえるというようなことがあるので、この新番組は本当に楽しみにしています。

委員：この番組は教育番組にしてしまっただめだと私は思っています。むしろ、みんなが気楽に「こんなもんか」と思えるような。「何となくみんなに知ってもらおう」という番組はあまりこうきちきちと決めてやるっていうのはどうかな、と。また、別の委員がおっしゃったように、どうやってこれをむしろ盛り上げていくか、ということが非常に大切だと思うんですよ。

委員：私も教育番組にする必要はないと思うんですが、たとえば護摩法要のときのやりとりなんて私はじめ見た時ぞくぞくっとなりました。お芝居の掛け合いを目の前でやるわけでしょ、歌舞伎見ているみたいな感じ。ああいう、すごく良い掛け合いを、野外でやるわけだし、すごい聴衆の中でね。あんなの音入れて護摩法要っていう住職との話だけじゃなくって。要するに、音から入ってくるわけだから。で、それを映像で見たかったら、例えば文化・交流センターの地下に行けば大画面でいつも見られるよといった情報があるだけで、「そんなんあるんや。本番は11月7日にあるんだ」ということが分かれば、知った人の次の行動につながるじゃないですか。そういう情報を与えてほしいわけ。次につながるような。

委員：せっかく市内のいろんなところで行われていることを、それがつながってないから、それをつなげる役割をタッキーがしてあげるとだいぶ違うのでは。

委員：そういう意味では、もっといろいろ連携したほうが良いよね。情報と、番組と、図書館と、みたいなね。箕面市内のいろんな施設なんかとも。

委員：詳しく知りたい人は中央図書館に行ってくださいとか、そういった情報や映像あります、見てくださいますかね。それを、福井さんが最後にひとこと言うだけでだいぶ違いますよ。

委員：この番組、今の感じでは「売り物」になると思っているので、もっと「売り物」にして、市の広報紙含めて推奨番組だとか、ほかのいろんな企画、中央学センとか西南図書館とかいっぱいいろんなことやってますわな。そういうものとうまく連携してみるとか。

委員長：いつも思うのがPR不足というか…。先に知っていただくのが大事であって、それから聴いていただく。一番初期の「知っていただく」というところからつまずいているような気がして仕方ないんですけどね。知らない、という人が多い。

委員：なかなか大変ですね。我々企業でも、何億使っても…。いろんなものを

紹介したいというのはものすごく分かるんですが、一点豪華主義というか、今月はこの番組を集中して紹介しようとかね。基本的にはお金をかけられないので、はっきり言って人のふんどしで相撲を取るか口コミですわ。

委員長：箕面 FM は、まちづくりの方もやっているんで、そっちであれだけの印刷物を出してますし、その中で上手に載せていただく、相乗りする、割り込んでいく、ということを手を上げて考えながら、あらゆる小さいところを網羅しながらもっていくと、それがかえって大きな力になろうかと思えますので、それを徹底的につぶしていく、という感じが大事なのではないかと。

委員：たとえば、A3のスペースを、市内の図書館やコミセン、観光案内所、市民活動センターとか、そういうところを取れませんか。柱でも良いし…常に「タッキー816PRコーナー」でも良いんだけど、毎月1回、今月のおすすめ番組とかを、A3ぐらいに拡大したものを貼ってもらえるところを。10ヶ所から15ヶ所くらいだったら、回っても貼れるし、結構目にふれるんじゃないかなと思うんですけどね。コピー代なんて知れてるわけですから。そのへんからでも始めたらもっと良いんじゃないかと。

委員：置くのと貼るのとでは全然違います。月に1回、おすすめ番組を貼ってもらうだけで。

委員：良かったと思うのは、今回の「箕面文化塾」だとか、以前聴取した「底力UP」とか、こういう企画番組が出てきたことは、非常に僕は良いことだと思っているんですよ。だからこそ、もっとこれを売り込む方法、これはポスター掲載でも良いでしょうし、我々も含めてどうやってもっと売り込めるかはぜひ真剣に議論すべきだろうと。

7. 審議機関の答申または改善意見に対して措置および年月日

なし

8. 審議機関の答申または意見の概要を公表した場所における公表内容、方法

自社放送

事務所への備置

ホームページ (<http://fm.minoh.net/>)

上記事項を明確にするため、この議事録を作成する。

平成 25 年 6 月 25 日

箕面FMまちそだて株式会社

番組審議会